



マスコットキャラクター
「たねっこ」

種まき通信

第 32 号 編集・発行：田根地区・地域づくり協議会（愛称：種まき塾）
2020. 2 〒526-0273 長浜市高畑町 316-1 田根まちセン内 Tel.74-1450

地域づくり協議会では、昨年九月から二月にかけて『空き家のネットワーク化事業』に取り組みました。

この事業は、今年度初めて長浜市連合自治会が取り組まれた「人口減少・少子高齢化を見据えた課題解決のための取組支援事業」の助成を受けて実施したものです。

田根地区では、以前から「空き家問題」に取り組んでいました。しかし、主な取り組みは一軒の空き家を大学生たちと改修したり、虎高生といっしょに空き家をテーマにした映画を製作したりというもので、地域への拡がりという点で限界がありました。

そこで今回、点在する空き家のネットワーク化を図り、活用幅

人口減少・高齢化を見据えた 課題解決のための取組支援事業 空き家ネットワーク化事業



慶大生と虎高生による壁塗り作業

を拡げて、交流人口を増やし、結果として移住に結びつきたいと考えました。

空き家はたくさんありますが、すぐに使えて、しかも他人が使うことにご理解いただける空き家というに限られてきます。

次に、こうして見つけた空き家の活用法を検討しました。

この検討会には、慶応大学小林研究会や田根に移住された方、さらに、『技術者養成学校』の開設を目指すNPO法人代表の太田さんや空き店舗を改修して食堂をオープンさせた方に加わっていただきました。

すぐに活用できる空き家
一二軒
内に活用理解ある空き家
七軒

最初に、自治会長さんの協力を得て「すぐに活用できる空き家」を調査し、その中で地域が活用することにご理解いただける空き家を探しました。

その結果が左記です。

田根を訪れるすべての人が

「希望のタネ」

★ 一月三日、二四日の二日間、「宿泊体験」のためにアイラとジエさんが来訪した後も様々な人が田根を訪ねてきました。

一月二日、三日の両日は、フィンランドから来日している大学生のアナスタシアさんが訪ねてきました。



アナスタシアさん (12/12)

前日は、旧横山商店を改修された余呉の太田さん宅に宿泊し、太田さんの紹介で田根に来たそうです。昨年八月から今年二月までの半年間、東京のフィンランド大使館商務部でインターンシップをしているそうです。

以前、立命館大学に短期留学していたそうで、一週間の休暇を利用して、旧友や知人を訪ねながら「自分探しの旅」の途中に立ち寄ったとのこと。

日本語がとても流暢だったので

どうやって覚えたのか聞いたら、日本のドラマを五〇〇本ほど繰り返し見て覚えたそうです。「それなら私も！」と思ったけれど、日本語を含めて五か国語を話す彼女だからこそできることでした。

将来、日本とフィンランドをつなぐ仕事をしたいそうです。

フィンランドというと遠い異国のイメージですが、何かしらの国際交流ができるとうれしいです。

★ 一月二日、三日の両日には、慶応大学の小関くんが訪ねてきました。

卒論テーマの一環で、昨夏、虎高生とともに整備した空き家のキッチンを使って豆腐づくりをするためです。実家が祖父の代からの豆腐屋さんだそうです。「なんで卒論に豆腐づくり？」という疑問は最後まで解けませんでしたが、しかし、彼は四月から大企業への就職が決まっています。企業では、彼のような柔軟な発想のできる人材を求めているのでしよう。

私たちの地域にもこうしたユニークな発想と確かな実行力を持つ若者が必要なのかもしれません。



慶大生・小関くん (12/22)

★ 来る四月一〇日にはオーストラリアのメルボルン大学生一六名が、慶大生とともに四泊五日の予定でやってきます。これは、ニユージールランドから慶応大学に留学しているナンシーの「縁」です。

国内外からの「希望のタネ」を空き家とともにホームステイでも迎えられないかと考えています。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いします。



ナンシーを囲む田根小の子どもたち (平成 30 年 8 月)

こうして様々な立場の人たちと検討した結果、「体験型宿泊ツアー」や「企業セミナー」、「大学ゼミ合宿」等に活用できないかということになりました。



空き家活用検討会 (12/1 キテハ食堂内)

具体的には、一〇年かけて慶応生が整備してきた大きな空き家は、イベントやセミナー会場として利用します。

一方、お風呂やトイレなどが使える空き家は、ツアーなどの参加者の宿泊場所とします。

また、NPOが改修された空き家は、技術者養成学校の「授業体

験」をメインにした体験事業を企画し、職人さんとの交流の場にしたいと考えています。単なるイベント体験ではなく、自宅改修など移住後のことをイメージできる体験メニューを用意して交流から移住へと誘います。

さらに、空き店舗を改修した食堂は、来訪者への食事提供の拠点とさせていただくほか、地域住民との交流の場として活用したいと思っています。

このように今回の事業では、「すぐに活用できる空き家」と「その活用にご理解いただける方」をさがし、具体的な活用法を検討しました。

なお、当初計画していなかった空き家の「宿泊体験」を、東京に住むアメリカ人や慶応大生に経験してもらい、その感想や意見も参考に空き家の活用法を検討しました。

こうして十分な準備もなく始まった取り組みでしたが、自治会長様や空き家所有者の方のご協力を得て無事終了しました。

これが今回の事業の概要です。

事業を振り返って

今回の事業を振り返って、次のようなことを感じました。

今回の事業では点在する空き家のネットワーク化を目指しましたが、空き家以上に大切なことは、人や組織のネットワーク化だということです。

田根では以前から慶応大学や米國マサチューセッツ工科大学(MIT)と空き家問題に取り組んできましたが、今回、新たな人にも加わっていただきました。

一人は、田根にいられていたMIT教授の弟さん夫妻です。教授との縁で力丸町に移住して来られました。

もう一人は、技術者養成学校の設立を目指すNPO代表の大山さんです。そして、高畑町の旧横山商店を改修してオープンされた「キテハ食堂」さん。

こうして今回の事業は、自治会長様をはじめ、大学生や移住者、NPOなど様々な立場の人の協力



キテハ食堂 (高畑町・旧横山商店)

を得て実施することができました。改めて、人や組織のつながりの大切さを実感しています。

今後はさらに、「NPO法人ミラツク」ともネットワーク化を図りたいと思っています。ミラツクとは、地協がクラウドファンディングの手法を教えてもらったことが縁で、サテライト事務所として田根の空き家を借りていただいています。

このNPO法人ミラツクの持つネットワークはとても素晴らしいので、パナソニックや京セラなどの企業や、大阪大学や関西大学など大学との多様な活動を全国各地で活発にされていて、「企業セミナー」や「大学ゼミ合宿」の誘致が期待できます。

また「合同会社ほのり」は、昨年九月に京都で設立したばかりの法人ですが、代表はSOHUBというグループを立ち上げ、田根で様々な取り組みを仕掛けてくれた若い日本人女性です。

MIT卒業後、カリフォルニア大学バークレー校の大学院を出て、海外で途上国を支援する仕事をしていますが、「今度、日本で合同会社を設立する」というメールをもらいました。

「田根では今、空き家について話し合っている」と連絡したら、「今度帰国したら一度訪問します」とのことでした。

余談ですが、彼女の実家は伏見の造り酒屋「北川本家」で、田根酒「美田根」を造ってもらっています。虎姫のリカマンに絞られての生酒が並んでいます。ぜひ、お

買い求めください。



MITANE

話がそれましたが、急ぎようお願いした「宿泊体験」に協力してくれたのは、MITの学生時代に毎年田根を訪れ、特に平成二三年には四か月間、田根の空き家でインターシップ生として暮らしていたアイラ(写真右)です。

MITのインター先は、通常JAXAとか理研など最先端の研究機関ですが、彼は「田根地区」を選択しました。

そこで、日本の片田舎「田根」がどんなところで、インター先として適切かどうかを担当者が、わざわざボストンから調査に来られたのを覚えています。

卒業後、MITの研究所「メディアラボ」の研究員やMIT助教をしていましたが、昨年一〇月から博士号を取るため、東京大学の

大学院に入学しました。

隣の彼女は今回初対面ですが、昨年一月から東京大学の特任助教をされていて、彼女の研究成果はニューヨーク近代美術館の永久収蔵品に選定されています。



Jie との「新しい出会い」と Ira との「懐かしい再会」(12/2)

ほかに慶大生にも「宿泊体験」をお願いし、利用者側の意見も参考に、より現実的な活用法を検討しました。

こうして空き家の活用を検討しましたが、田根には空き家以外にも様々な課題が山積しています。ただその一方で、こうした課題

に向き合ってきたからこそその「出会い」もたくさんありました。

そんな経験から、「地域課題が地域を育てる」ということを実感しています。

空き家という「悩みのタネ」を地域の魅力という「希望のタネ」に変え、芽吹かせ、いつか花咲かせたいと思います。



事業取組報告会 (12/15)

※ 今回の取組は、昨年二月一五日に開催された長浜市連合自治会主催「まちづくり講演会」で報告させていただきました。